



首都大学東京 大学院

人間健康科学研究科

Department of Nursing Sciences, Graduate School of Human Health Sciences
Tokyo metropolitan university

看護科学域



テーマ:大都市で生活する人々および地域の「健康」

看護科学の研究・教育を通じて
個人と集団の「健康」に寄与し
生活の質の向上と活力ある
長寿社会の実現を目指す





看護学：知とアートの創造

■看護科学域では、大都市で生活する人々および地域の「健康」をテーマとして看護科学の研究・教育を行っています。近年の少子高齢化の問題や慢性疾患罹患患者の急激な増加に鑑み、健康長寿の伸延等を目的とした健康の維持・増進、生活習慣病や認知症などの疾病の予防および疾病からの回復、家族機能の維持・促進、終末期、医療者としての倫理の在り方などに焦点を当て、それらの健康課題を効果的・効率的に解決、支援する看護ケアについて個人レベルから地域のケアシステムモデル構築レベルまで発展させる研究を行なっています。博士前期課程においては、教育者、研究者の育成とともに高度な看護学の知識と技術を有する高度実践専門家(CNS)を育成しています。博士後期課程においては、研究者、教育者として看護科学の発展に寄与し、保健医療・福祉の分野でのリーダーとなる人材を育成しています。

○育成期看護学分野

母性看護学:母性・助産領域について理論・方法論を総合的に研究する。

小児看護学:小児看護保健領域について理論・方法論を総合的に研究する。

○成熟期看護学分野

成人看護学:成人とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。

高齢者看護学:高齢者とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。

○広域看護学分野

在宅看護学:在宅看護・地域ケアシステムについて理論・方法論を総合的に研究する。

公衆衛生看護学:公衆衛生看護学について理論・方法論を総合的に研究する。

地域精神看護学:地域精神保健問題等について理論・方法論を総合的に研究する。

○看護倫理・管理学分野

看護倫理学:実践における倫理的諸課題等について総合的に研究する。

看護管理学:「質の保証」を可能にする看護提供システム等について総合的に研究する。

看護科学域 博士前期課程				
分野	指導教員			
育成期看護学	母性看護学	教授	安達 久美子	直通 03-3819-7269 mwadachi@hs.tmu.ac.jp
	小児看護学	教授	飯村 直子	直通 03-3819-7342 nimura@hs.tmu.ac.jp
成熟期看護学	成人看護学	教授	西村 ユミ	直通 03-3819-7255 yumin@hs.tmu.ac.jp
	高齢者看護学	教授	勝野 とわ子	直通 03-3819-7406 katsuno@hs.tmu.ac.jp
広域看護学	在宅看護学	教授	河原 加代子	直通 03-3819-7404 hu_yuan@hs.tmu.ac.jp
	公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	直通 03-3819-7418 saito@hs.tmu.ac.jp
	地域精神看護学	教授	山村 礎	直通 03-3819-7217 yamamura@hs.tmu.ac.jp
看護倫理・管理学	看護倫理学 看護管理学	准教授	習田 明裕	直通 03-3819-7394 shuda@hs.tmu.ac.jp

看護科学域 博士後期課程				
分野	指導教員			
育成期看護学	母性看護学	教授	安達 久美子	直通 03-3819-7269 mwadachi@hs.tmu.ac.jp
	小児看護学	教授	飯村 直子	直通 03-3819-7342 nimura@hs.tmu.ac.jp
成熟期看護学	成人看護学	教授	西村 ユミ	直通 03-3819-7255 yumin@hs.tmu.ac.jp
	高齢者看護学	教授	勝野 とわ子	直通 03-3819-7406 katsuno@hs.tmu.ac.jp
広域看護学	在宅看護学	教授	河原 加代子	直通 03-3819-7404 hu_yuan@hs.tmu.ac.jp
	公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	直通 03-3819-7418 saito@hs.tmu.ac.jp
	地域精神看護学	教授	山村 礎	直通 03-3819-7217 yamamura@hs.tmu.ac.jp

母性看護学

安達 久美子

周産期及び、女性の生涯全般を通しての健康に関する問題に取り組んでいます。

母性看護学研究室では

平成 24 年度修士論文のテーマ

- 『助産師の声明』における専門的自律能力に対する中堅助産師の実践評価の現状と継続教育との関連
- 助産師の職業性ストレスと分娩業務における負担感の関連
- 妊婦の腹部深部体温と腹部皮膚表面温の実態

母性看護研究会

毎月 1 回、母性看護学領域の大学院生、修了生、教員が集まって、母性看護研究会を開催しています。

各自の研究計画についてのディスカッション、研究成果の発表、研修、海外留学の報告の場としています。



大学院生の研究成果

OSachiyo, Kubo : Effect of Passive Smoking Using Maternal and Neonatal Salivary Cotinine Measurements, Nursing Research, 61 (2), 148-152, 2012.

○周燕敏; 在日中国人女性における婚姻暴力の認知に関する研究, 日本保健科学学会誌, 15 (3), 132-140, 2012.

留学生の受け入れ

中国・ネパールからの留学生が、母性看護学に関する研究に取り組んでいます。

留学生を通して、異なった文化や習慣の中での、女性の健康を考える機会を持つことができます。

小児看護学

飯村 直子

小児看護学領域では
子どもと家族への看護実践能力を高めることを目指しています

博士前期課程

<小児看護専門看護師（CNS）コース>

子どもが病気や障害をもつことによって生じる子どもと家族の変化について査定する方法、査定によって明らかになった看護上の問題に対して援助する方法など、講義やゼミを通して小児看護専門看護師として必要な知識を習得します。また、実際に小児看護専門看護師の指導のもとで実習を行い、より実践に応用できる知識と技術を学びます。

<論文コース>

小児看護学領域で重要と考えられる概念や理論を理解します。また、子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、査定をする技術、方略を学びます。さらに、小児看護学における研究の動向と課題を明らかにしたうえで、研究に取り組みます。



博士後期課程

小児看護学領域で重要と考えられる概念や理論を分析し、新しい概念や理論の構築を目指します。

小児看護学における研究の動向と重要課題について、文献レビューやフィールドワークを通して明らかにしたうえで、子どもと家族への看護実践の質の向上が期待でき、かつ、看護学の発展に寄与できるような研究に取り組みます。

最近の研究テーマ

- ・小児科外来における看護師の働き
- ・小児医療における看護師と保育士との協働
- ・検査や処置を受ける子どもへの援助
- ・小児看護における家族支援



成人看護学

西村 ユミ

成人看護学領域（前期課程・後期課程）では

成人期にある人々やその家族への看護実践のあり方を捉え直し、
新たな視点や方法を創造していくことをめざします。

成人看護学領域では、より良い看護実践を実現するために、病いを患う人々の経験の理解に関心を向けています。

一人ひとりが生活者として暮らしを成り立たせながら、病院や施設などで治療を受けたり、療養をしたりしています。そのプロセスの中で、同じような病い経験をした者が集まって患者会・家族会を作ったり、生活の知恵を交換し合ったりもしています。研究科の授業や演習では、このような経験や営みを理解して援助を行うために、関係する思想や理論、方法論について検討します。

他方で、看護実践の編成のされ方にも関心を向けています。これは、看護の「実践知」を探求することにも繋がります。

看護職である皆さんは、その実践において、まずは患者の状態の方に関心を向けています。そのため、自分自身がいかに関心を持っているのか、そこでいかなる経験をしているのかについて、自覚したり言語化したりすることは難しいのではないのでしょうか。成人看護学領域では、授業や演習での議論、文献レビューや調査などを通して、自分のものの見方や実践の仕方を捉え直し、そのうえで、看護実践の新たな見方や技術を創造することをめざします。さらに、こうした知恵や技術を“継承”していくための方法論について検討します。

これらの検討を足場にして、各自の研究課題に取り組んでいただきます。



（成人看護学領域の教員の研究テーマ）

- 急性期看護場面の実践知に関する現象学的研究
- 病いを患うこと／それへと手を差しのべることの意味に関する研究
- 患者当事者グループの実践研究
- 終末期看護のやりがいに関する質的量的研究
- 治療を受ける患者の不安、ストレス軽減を図る実践研究

高齢者看護学

勝野 とわ子

高齢者看護学領域には、博士前期課程に論文コースと CNS コースがあります。
また、博士後期課程も開設されています。



香港大学との国際交流 2012年2月



香港大学でのシュミレーションラボにて

◇最近の研究テーマ

若年認知症者へのケア方法および地域ケアサービスプログラムの開発・評価*
災害看護教育プログラム開発、「災害時要援護者」への看護支援システムの構築、
認知症者および家族の QOL, reminiscence、看護教育・研究・実践の国際化方略など

* 「地域における若年認知症者と介護家族のための横断的看護支援プログラムの開発と評価」(科研基盤 (B))

◇その他の研究テーマ：がん患者の看護支援方法、高齢者看護の人材育成に関する研究、
看護における自律性概念の研究など。

高齢者看護 CNS コース (H19 日本看護系大学協議会認可)

大都市における「活力ある長寿社会」を実現するために、高齢者看護における卓越した高度実践能力を有する専門看護師を育成することを目標としています。本コースの特徴は、①高度医療機関における高齢者看護、および②認知症ケアにおいて高い専門性とリーダーシップ能力を有する人材を育成することです。実習は、西神戸医療センター、グループホームせせらぎなど日本のトップレベルの高齢者看護実践施設で行われます。



高齢者看護学領域 教員

大学院生のテーマは多岐にわたり、認知症者への音楽介入の効果、災害時における「災害時要援護者」への支援と看護者の役割、災害看護教育、認知症者・家族への看護支援方法、認知症ケアにおける環境的介入、パースィ看護理論の検証研究、高齢糖尿病患者のセルフケア支援、終末期高齢癌患者のケアなどが選択されています。

講義は、高齢者看護、認知症ケアの理論、技術などの専門的知識、地域看護、災害看護、高齢者の健康評価などがあります。演習・実習ではヘルスアセスメントはじめ高度実践専門職の能力開発を目指しています。

在宅看護学

河原 加代子

在宅看護学領域（下図）では、地域ケアシステム・在宅看護分野の課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学習し、課題解決のプロセス及び実践と評価方法についても探求し、その成果を研究としてまとめる能力を育成します。

●博士前期課程

関心ある現象について概念（変数）を特定し、データ収集の方法、分析方法の基礎を学びます。次に特別研究で取り組むテーマについて国内外の研究の動向、理論および主要概念、研究方法について文献レビュー、実地踏査を行う演習形式を組んでおります。

●博士後期課程

学生が志向する地域ケアシステム・在宅看護分野の課題分析及び看護介入の方法論の開発にむけた能力をフィールドワークを通して養います。

<H22 年度, H23 年度, H24 年度の学位論文テーマ>

博士論文

「震災後の看護活動におけるチームワークの質を高めるコンピテンシーモデルの開発」

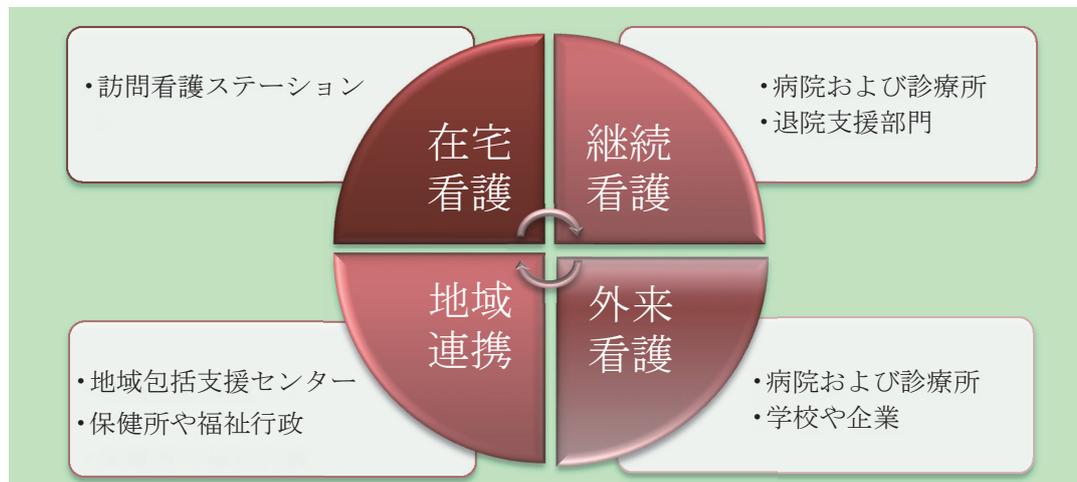
「要支援高齢女性の社会活動尺度の開発」

修士論文

「外来における HIV 患者のセルフケアを推進する看護師の実戦能力に関する研究」

「地域包括支援センターに所属する保健師等の転入高齢者支援に関する認識と実践状況の分析」

「急性心筋梗塞発症後の外来受診を継続している中年期患者における再発防止予防行動」



在宅看護学領域では、博士前期課程に論文コースと CNS コースが用意されており、CNS コースは日本看護系大学協議会において在宅看護専門看護師教育課程として認定を受けております³⁾。H21、H22 年度にそれぞれ 1 名ずつ、在宅看護分野の専門看護師が育っております。H23 年度は 3 人目となる学生が実習に取り組んでおります。（注：専門看護師となるには、大学院修了後に所定の手続きが必要です）

●在宅看護専門看護師（CNS）コースは、在宅看護専門看護師として求められる 6 つの能力（卓越した実践、教育、相談、連携調整、研究、倫理的問題の調整）を高めるため、在宅看護スペシャリストとしての役割を担う実習が組まれております。

<H21 年度, H22 年度の課題研究テーマ>

「がん終末期患者の訪問看護導入時に直面する訪問看護師の困難感」

「訪問看護を受けたことによる外来化学療法中のがん患者の在宅療養生活と気持ちの変化」

公衆衛生看護学

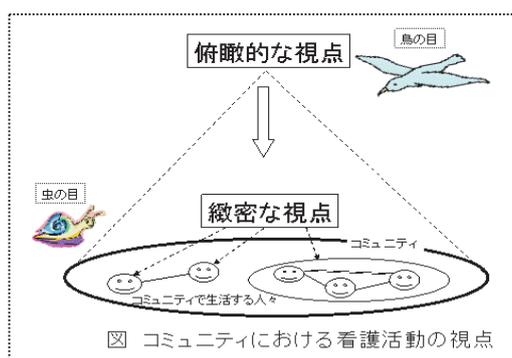
齊藤 恵美子

公衆衛生看護学は、個人や家族、地域全体の健康と生活の質の向上に寄与する実践に役立つ科学です。地域で生活している人々とその家族や、様々なつながりをもった人々の集団を対象としています。

保健師の実践に関連する領域のため、大学院では、保健所等の行政機関や企業、地域包括支援センター、病院などで様々な実践経験を積んだ学生や、現場の保健師も社会人学生として学んでいます。探求したいテーマをもって、日頃の実践を向上しようと考えている看護職の方々の、主体的な研究活動を支援したいと考えています。

博士前期課程での目標

1. 公衆衛生看護学の理論、実践、研究による最新の知見を評価する
2. 公衆衛生看護学の知見としての研究を展開し、実施する
3. 多様で多文化的な集団を対象として、根拠に基づく公衆衛生看護実践の適用を評価する
4. 研究に関する倫理的課題と責務について、明確に述べる
5. 健康の向上を促進するためのリーダーシップの方法を活用し、身につける



博士後期課程での目標

公衆衛生看護学の実践と教育の科学的根拠について追求し、前進させる能力を養う

研究分野

公衆衛生看護実践、コミュニティ・アセスメント、地域高齢者の介護予防

Public Health Nursing SAITO Emiko, PhD, PHN, RN

Goals of the Master of PHN Program

1. Evaluate the current state of knowledge in public health nursing as it informs theory, practice and health care research.
2. Develop and implement a research study in public health nursing knowledge.
3. Evaluate the application of evidence-based practice of public health nursing among diverse and multicultural populations.
4. Articulate ethical issues and responsibilities involved in health care research.
5. Develop and utilize leadership approaches that foster improvement of health care.

Goals of the PhD of PHN Program

Develop capabilities to explore and move forward the scientific evidences for practice and education in public health nursing.

Fields of research

Public health nursing practice, Community assessment, Preventive long-term care for community-dwelling elderly

Education and Research

Introduction to Public Health Nursing, Advanced Practice in Public Health Nursing

Comparison of characteristics and care-needs certification proportion between participants and non-participants in a geriatric health examination over a 3-year follow-up

Predictors of certification for long-term care need in community-dwelling older adults

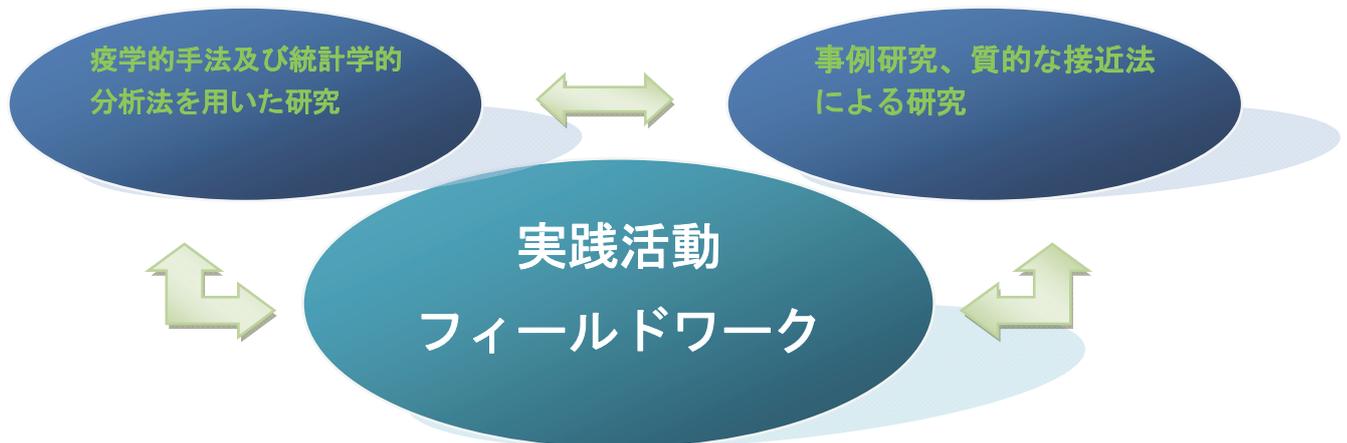
Social support as predictors of health status among older adults living alone in Japan

Changes in functional capacity in older adults living alone: A three-year longitudinal study in a rural area of Japan

地域精神看護学

山村 礎

精神看護学の社会的な、あるいは看護学における役割の特徴は、ライフサイクルを超え、療養の場所を越え、さらに精神障害の有無をも超えた全人的な対象設定をおこなうところにあります。こうした広範な対象に対して一方では脳科学などの先端分野から、他方では日常的な人と人のおつきあいまで参照、援用すべき素材もまた広範囲に点在しています。これらのあらゆる知見を可能な限り援用しつつ、精神障害をおった方々、その関係者、あるいは援助者としての看護職にとって役立つ知見や考え方、または、具体的な生活の知恵、手のさしのべ方などの方法論を提示していくことを目的とする研究室です。



最近の研究テーマ (学位論文テーマを含む)

- ・ 大学生を中心とする青年期の精神衛生活動指針の構築
- ・ 発達障害を抱える親、きょうだい、教員の苦悩や問題点
- ・ 精神障害者に対するセルフスティグマ評価尺度についての研究
- ・ 精神看護学実習中の学生の心理的状态の変遷と教育学的意味
- ・ 訪問看護活動における再発予兆の認識と再発予防方策の検討
- ・ 精神障害者の服薬に関するコンプライアンス、アドヒアランスの検討
- ・ 地域における虐待予防も含めた母子援助方法論の検討
- ・ 高校生の精神的諸問題についての対処方策と自己の求助行動傾向との関連
- ・ 看護学実習における精神障害に対する態度の変化に関する研究
- ・ 精神障害者がサービスを活用する際の自己関与に関する研究
- ・ 精神科訪問看護師が捉える再発重病化予測因子の検討
- ・ 地域で生活する統合失調症患者の服薬行動と服薬態度に関する検討

看護倫理・管理学

習田 明裕

看護倫理学

看護は「人」を対象とする実践の科学であり、とが看護が看護たり得る基盤となる重要な理念のもと、医療現場が抱える様々な倫理的課題、「インフォームドコンセント」の問題、患者の安全を抑制の問題」、から在宅へとシフトしてきた「訪問看護師の実態を探るとどう対応していけてきました。現在は主移植における看護職して、倫理的視点から研究を進めています。

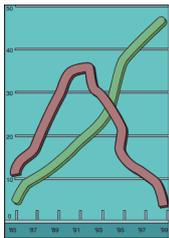
人間を尊重すること、つまり人権を尊重することです。看護倫理学研究室では、こうした理念例えば高度先進医療における「インフォーマー」という名目で行われてきた「身体療養環境が施設からトする中で生じた葛藤」など、ともに、看護職としていいのか探求しに、脳死・生体臓器の役割・機能に関



研究テーマ（その他）

- 利用者の尊厳や権利を尊重するケアの方法及びシステムの開発（抑制（身体拘束）を使わない看護を可能にする要因、抑制に替わる看護技術など）
- 看護職が直面する倫理的課題の探索およびその対応（移植看護、訪問看護、手術看護など）
- インフォームドコンセントと患者の意思決定を支えるケア・・・など

看護管理学



看護管理学とは、対象者が最適な療養生活を送れるよう人的・物的・経済的資源の効果的・効率的なマネジメントを体系化していく学問です。このようなマネジメントスキルは管理者のみに求められるのではなく、全ての看護職者に必要とされるものです。また、看護のあり方は医療制度・政策に大きな影響を受けるため、患者・国民の健康の維持・増進に必要な看護や医療提供体制についてエビデンスに基づく政策提言をしていくことが必要です。



看護管理学教室では、現存する課題の解決や将来の看護提供体制の検討に資する研究を行っています。演習では看護倫理学教室と合同で日本看護協会や国立国際医療センター・エイズ治療・研究開発センター等において幅広い看護の役割について学びます。

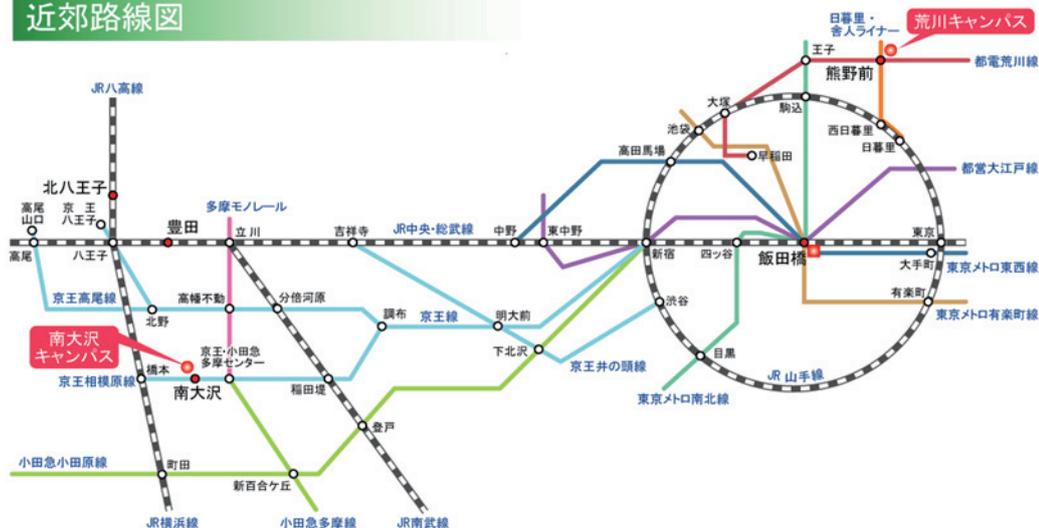
研究テーマ（その他）

- 効果的・効率的かつ安全なケアの方法及びシステムの開発
- 新人看護師の職場適応を促進する要因とマネジメント
- クリティカルパスの効果的活用と患者の個別のニーズに添った看護実践
- 看護師の専門職性測定尺度の開発
- 看護師のキャリア形成
- 看護職の組織行動
- 看護師の裁量権に関する研究

■首都大学東京アクセスマップ

キャンパスのご案内

近郊路線図



荒川キャンパス

(看護科学域、理学療法科学域、作業療法科学域、放射線科学域、フロンティアヘルスサイエンス学域)
〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10

☎ 03-3819-1211

(募集要項の請求及び問い合わせ先)

南大沢キャンパス

(ヘルスプロモーションサイエンス学域)
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

☎ 042-677-1111

※募集要項の請求は荒川キャンパスにお願いします。